

## 第18回 とさ・子ども主体の学校生活づく<sup>り</sup>を考え<sup>会</sup> (通称 りぐる会) 報告

テーマ 豊かに生きよう ～ 今を<sup>あした</sup> 明日を 将来を ～

平成30年12月15日(土)以来の「りぐる会」、感激の開催でした。集まってくださった方、また今回はご家族のこと等心配されて参加を断念しながらもエールを送ってくださった方、みなさんに感謝です。「第18はりぐる会」の報告をします。

- 1 出席者は22名です。内訳は、特別支援学校関係8名、特別支援学級関係7名、教育研究所2名、弁護士1名、そして助言者・事務局合わせて4名でした。
- 2 話題提供は、「車椅子ラグビー 池選手応援の取組」、高知市立高知特別支援学校中学部の 汲田 喜代子 先生。NHK の放送を活用した報告は、分かりやすく、子どもたちの様子が手に取るように伝わりました。また、新しく続く取組に、本市小中学校の学級もぜひ一緒にと提案がありました。
- 3 続いてインタビュー形式による高知市立一宮東小学校の 坂下 あき 先生の「知的障害特別支援学級担任になって ～戸惑いと楽しさと～」。担任を希望した理由、コロナ休校中の出発、子どもたちとの出会い、通常の学級で取組んできた授業との違い、日々の実践の積み重ね等。真摯な姿に、参加者もこの教育との出会いの頃を振り返る機会になりました。

- 4 明治学院大学准教授 高倉 誠一 先生から、「確かな」「手応えのある」「本物」の取組が子どもたちも教師も充実感がある、生単で「あれもこれも身につけよう」という活動を構えると根無し草になる、やれることを愚直に繰り返すことが大切、といったお話をいただきました。



観光名所へご案内

- 5 りぐる会のためだけに来てくださった中坪先生からは「高知特別支援学校の特別支援学級への支援の貴重さ、特別支援学校のセンター的機能の発揮」「高知特別支援学校(当時高知市立養護学校)誕生、“西の香西東の川田”と言われたころの特別支援教育」、「りぐる会八策を大切に仲間の輪を広げる」ことの大切さが語られました。また、知的障害教育をめぐる全国の動き、歴史にも言及されました。

- 6 Kumiちゃんコーナー「弁護士は見たシリーズ5」は、「高知県におけるスクールロイヤー」についてのお話でした。高知県では、個別のケースの学校の代理人になるわけではなく、法教育のための教員の研修、いじめ予防の児童生徒への授業などが中心だそうです。「文科省の思い」と「現場の実際」の乖離、ここがショックでした。(テレビとは、ちごうちよったねえ…)

- 7 実践談義は、「鬼滅学園で遊ぼう」、「竜宮城にレッツゴー」の指導案や実践、実践のプリントが配られ、説明がありました。

- 8 事務局より、(1) 8月27・28日石川県で全国生活中心教育研究会の研究大会があります。本会からも数名参加します。(2) 次回は12月上旬を予定しています。

- 9 「お客は、なし!!」、残念でした。次回こそは、仲間とじっくり語り合いたいですね。

早めの集合、会場設営、機器類の準備、そしてみんなでの片付け等、大変お世話になりました。りぐる会の仲間のよさをしみじみと感じました。ありがとうございました。

## りぐる会 八策

- 一 子ども主体
- 二 続ける
- 三 実践をベースに高め合う
- 四 柔軟な対応
- 五 仲間を増やす
- 六 あせらず じわじわと
- 七 功を求めず
- 八 本音で語ろう